

産業廃棄物処理計画書

令和 6 年 6 月 17 日

新潟市長 殿

提出者

住所 新潟県柏崎市駅前1丁目3番1号

氏名 株式会社ブルボン

代表取締役社長 吉田 康

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

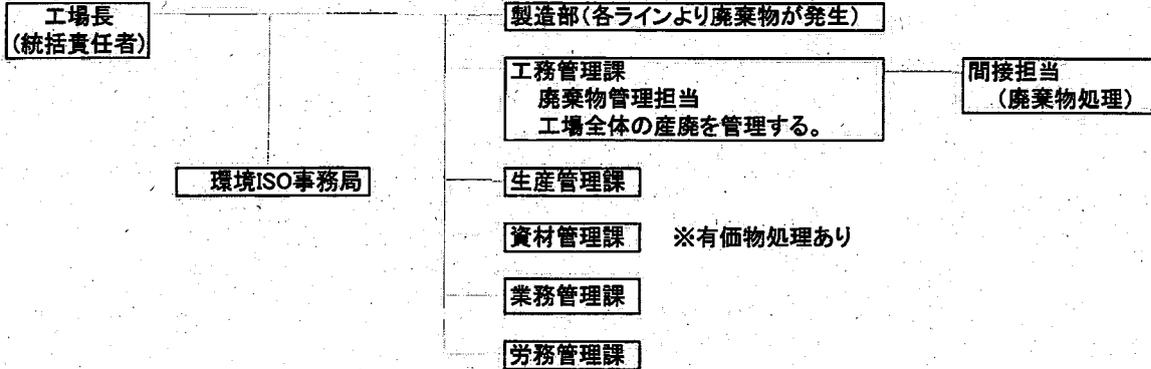
電話番号・0257-23-2333

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社ブルボン 新潟工場
事業場の所在地	新潟県新潟市西蒲区巻乙480番地
計画期間	令和 6 年 4 月 1 日 から 令和 7 年 3 月 31 日 まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	食品(菓子)製造業
②事業の規模	原料から製品までの菓子製造 生産量 13,454 ton (令和 5年度)
③従業員数	347名 (令和 6年 3月31日現在)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度 (5 年度) 実績】								
① 現状	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	動植物性 残さ	蛍光灯		
	排出量	2,933.34 t	0.18 t	155.21 t	148.10 t	0.17 t	t	t
	産業廃棄物の種類							
	排出量	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)								
1. ISO14001活動を通じて、動植物性残さ(菓子規格外品)・廃プラ(包材)の発生率の低減活動 2. コンテナ、パレット等を有価物として搬出 3. 新排水処理施設稼働調整による脱水機稼働時間の低減								
【目標】								
② 計画	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	動植物性 残さ	蛍光灯		
	排出量	2,816.01 t	0.17 t	139.69 t	145.14 t	0.17 t	t	t
	産業廃棄物の種類							
	排出量	t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の計画)								
1. ISO14001活動を通じて、動植物性残さ(菓子等外品)・廃プラ(包材)の発生率の低減 2. 排水処理施設更新による汚泥脱水機稼働時間の削減								

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	1. 工場内に廃棄物名を表示した回収容器を設置 2. 「ゴミ分別表」及びこの表に対応した「廃棄物置き場配置図」を工場内及び廃棄物置き場に掲示	
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	1. 焼却用の動植物性残さ置き場・廃プラ置き場に肥料化できる動植物性残さ・RPF化できる廃プラが混在している為、写真などを利用してミーティングや掲示で指導する 2. 廃プラの分別の精度を上げて、有価物の比率を向上させる 3. 原料のローリー化による梱包材の削減 4. 加工工程設備改善による菓子等外率の削減	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度（5年度）実績】								
① 現状	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	動植物性残さ	蛍光灯		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0.00 t	t	t				
	産業廃棄物の種類							
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)								
特になし								
【目標】								
② 計画	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	動植物性残さ	蛍光灯		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.00 t	t	t				
	産業廃棄物の種類							
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の計画)								
特になし								

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度（5年度）実績】								
① 現状	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	動植物性残さ	蛍光灯		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	2,890.67 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	t	t
	産業廃棄物の種類							
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)								
1. 新排水処理施設稼働調整による脱水機稼働時間の低減 2. ISO14001活動を通じて、工場内洗浄水の低減								
【目標】								
② 計画	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	動植物性残さ	蛍光灯		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	2,746.14 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	t	t
	産業廃棄物の種類							
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の計画)								
1. これまでの活動の継続								

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度（5年度）実績】									
① 現状	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	動植物性残さ	蛍光灯			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0.00 t	t	t	t				
	産業廃棄物の種類								
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)									
特になし									
【目標】									
② 計画	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	動植物性残さ	蛍光灯			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0.00 t	t	t	t				
	産業廃棄物の種類								
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の計画)									

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（5年度）実績】									
① 現状	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	動植物性残さ	蛍光灯			
	全処理委託量	42.67 t	0.18 t	155.21 t	148.10 t	0.17 t	t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	1.07 t	0.18 t	60.44 t	57.29 t	0.17 t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	41.60 t	0.00 t	56.53 t	117.40 t	0.17 t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託料	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	t	t	t
	産業廃棄物の種類								
	全処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託料	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)									
1. ISO14001活動により、工場排水・包材ロス・菓子等外品の減少化 2. 消泡剤使用による浮遊アワの削減 3. 照明のLED化による蛍光管の削減									

① 計 画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	動植物性 残さ	蛍光灯			
	全処理委託量	40.54 t	0.18 t	152.11 t	145.14 t	0.17 t	t	t	t
	優良認定処理業者 への処理委託量	1.02 t	0.18 t	59.23 t	56.14 t	0.17 t	t	t	t
	再生利用業者 への処理委託量	39.52 t	0.00 t	55.40 t	115.05 t	0.17 t	t	t	t
	認定熱回収業者 への処理委託料	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	t	t	t
	認定熱回収業者 以外の熱回収を行う 業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	t	t	t
	産業廃棄物の種類								
	全処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	優良認定処理業者 への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	再生利用業者 への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者 への処理委託料	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者 以外の熱回収を行う 業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	(今後実施する予定の取組)								
	1. これまでの活動の継続								
	2. 新排水処理施設調整により、脱水機稼働時間を短縮化する								
※事務処理欄									

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画書（集計用シート）

提出者の名称	株式会社ブルボン代表取締役社長 吉田 康	提出者の住所	新潟県柏崎市駅前1丁目3番1号
事業場の名称	株式会社ブルボン 新潟工場	事業場の所在地	新潟県新潟市西蒲区巻乙480番地
内容年度	令和 6 年度		

(単位:トン)

廃棄物の種類	現状 / 計画	排出量 A	自社内での処理状況				委託先での処理状況				
			自己再生 利用量 B	うち熱 回収量 C	自己中間 処理 減量化量 D	自己最終 処分量 E	全処理 委託量 F	委託処理量のうち委託先毎の量			
								優良認定 処理業者 への処理 委託量 G	再生利用 業者への 処理 委託量 H	熱回収 認定業者 への処理 委託量 I	熱回収 認定業者 以外の熱 回収を行 う業者へ の処理 委託量 J
汚泥	現状	2,933.34	0.00	0.00	2,890.67	0.00	42.67	1.07	41.60	0.00	0.00
	計画	2,816.01	0.00	0.00	2,746.14	0.00	40.54	1.02	39.52	0.00	0.00
廃油	現状	0.18	0.00	0.00	0.00	0.00	0.18	0.18	0.00	0.00	0.00
	計画	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.18	0.18	0.00	0.00	0.00
廃プラ	現状	155.21	0.00	0.00	0.00	0.00	155.21	60.44	56.53	0.00	0.00
	計画	139.69	0.00	0.00	0.00	0.00	152.11	59.23	55.40	0.00	0.00
動植物性 残さ	現状	148.10	0.00	0.00	0.00	0.00	148.10	57.29	117.40	0.00	0.00
	計画	145.14	0.00	0.00	0.00	0.00	145.14	56.14	115.05	0.00	0.00
蛍光灯	現状	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.17	0.17	0.00	0.00
	計画	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.17	0.17	0.00	0.00
	現状	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	計画	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	現状	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	計画	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	現状	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	計画	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	現状	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	計画	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	現状	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	計画	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	現状	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	計画	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	現状	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	計画	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	現状	3,237.00	0.00	0.00	2,890.67	0.00	346.33	119.15	215.70	0.00	0.00
	計画	3,101.17	0.00	0.00	2,746.14	0.00	338.12	116.73	210.14	0.00	0.00

第 7 面 産業廃棄物の一連の処理の工程 について

・汚泥(排水処理水) 自社で脱水及び乾燥の中間処理 →	1. 発酵 → 肥料として再資源化
・汚泥(スカム) 吸引汚泥として処理業者へ委託 →	1. 脱水 → 肥料として再資源化
・汚泥(排水処理施設処理槽上の浮遊アワ) 処理業者へ委託 →	1. 焼却 → 埋立 ※平成30年より消泡剤を使用している為 現在では、ほとんど発生しない。
・廃油(機械油・植物油、分析廃油) 3ヶ所の処理業者へ委託 →	1. 焼却 → 埋立 2. 原料として再資源化
・廃プラ(包材、コンテナ容器等) 2ヶ所の処理業者へ委託 →	1. RPF化による再資源化 2. 焼却後、埋立
・動植物性残さ(菓子屑、包装されたもの) 4ヶ所の処理業者へ委託 →	1. メタン発酵化による再資源化 2. 発酵 → 肥料として再資源化 3. 焼却後、埋立
・ガラス類、コンクリート 2ヶ所の処理業者へ委託 →	1. 破碎(蛍光管 → 原料として再資源化 破碎(コンクリート) → 原料として再資源化 2. 焼却後、埋立
・金属くず 通常は有価物として搬出 →	1. 大型機械などを搬出する際、再生業者とは別の収集運搬業者に 依頼して運搬費用>有価代金となった場合に産業廃棄物となる。
包装材としての金属缶 →	2. 分別・破碎 → 原料として再資源化
・がれき類 構造物変更により発生する 壁材 等 →	1. 破碎後埋立

汚泥排出量の変動 について

現状と計画の数量が大きく異なる場合があります、それは排水処理場の脱水機の処理量の変動によるものです。

排水処理施設内の曝気槽のMLSS値、沈降槽の界面数値により、脱水機の稼働時間を変更する場合があります、過去に数ヶ月間、脱水機を稼働させなかったこともあります。